

理工系高校生のDVの知識の実態

須賀朋子

国立茨城工業高等専門学校

1. 目的

日本では若者層の間でのデートDVの問題が表面化をはじめている。2013年に東京都生活文化局が行った若者層（18歳～29歳を対象とした）インターネット調査では女性の42.4%、男性の31.3%が交際相手から1度でもひどい暴力を受けたことがあると回答をしている。このような状況を未然に防ぐためには学校現場でのDV予防教育が必要であると思われる。そこで、本研究では理工系高校生（特に男子高校生に焦点をあてて）DVの知識の実態を明らかにする。

2. 調査方法

1) 対象

某県の工業を専攻とする高校2年生202名（男子173名、女子29名）にDVの知識に関する横断的質問紙調査を行った。質問紙紙面に質問に答えるか否かは自分で決めてよいことを明記し、プライバシーは守られること、無記名方式でその場で記入をもらい封筒に入れて回収をした。なお質問紙の提出を持って研究に同意をしたこととみなすことを明記した。回収率は97.0%であった。筑波大学医の倫理委員会の承認を得て実施した。

2) 質問紙の内容

4件法で「あてはまる4点」「少しあてはまる3点」「あまりあてはまらない2点」「あてはまらない1点」で逆転項目は配点を逆にした。紙面の都合上、質問紙の内容の1部は、結果の表のなかに示した。

3. 結果

1.理工系高校2年生のDVの知識	男子 M(SD) n=173	女子 M(SD) n=29	性差 p値
1.DVという言葉は知っている	3.78(.64)	3.69(.66)	n.s.
2.DVとはどういうものなのか知っている	3.48(.83)	3.21(.98)	n.s.
4点満点平均値	Mann-Whitney U検定		

2.理工系高校2年生のDVの特徴に関する理解 *逆転項目	男子 M(SD) n=173	女子 M(SD) n=29	性差 p値
*1.DVIは相手とのケンカが原因でおこる。	2.76(.87)	2.82(.72)	n.s.
2.DVは恋人同士などの間でもおこる。	3.34(.79)	3.64(.49)	n.s.
3.*女性から男性への暴力はDVではない。	3.59(.71)	3.57(.57)	n.s.
4.DVは怒りで衝動的におこるものではなく、暴力という方法を選んでいる。	2.54(.95)	2.86(.80)	n.s.
5.DVは本質は相手を支配することである。	2.93(.90)	2.68(.82)	n.s.
6.DV被害は身近で誰にでもおこりうることである。	3.23(.84)	3.07(.86)	n.s.
7.DVの加害者は暴力を振ったあと、謝ることもあるが再び暴力を振うことか	3.51(.70)	3.54(.58)	n.s.
4点満点平均値	Mann-Whitney U検定		

4. 考察

理工系の男子と女子の間でDVの詳しい知識において有意差がみられた項目はなかった。全体的にDVの知識が低いため先行研究の普通科の高校生との比較を行う必要があると思われる。